

授業科目(ナンバリング)	ソーシャルワークの基盤と専門職(社会) (DA109)			担当教員	野田 健		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本授業は、人間尊重とホスピタリティの醸成を図ることを基軸に据え、社会福祉士の専門職としての基盤を修得するため、下記の4点を授業のねらいとする。①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。また、精神保健福祉士・介護福祉士の社会福祉専門職としての共通基盤を修得するとともに、人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、精神保健福祉・介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を修得することもねらいとする。</p> <p>なお、これらのねらいを達成していくため、この授業はアクティブ・ラーニング類型①⑥⑨に沿い、ポートフォリオを活用しながら、小テストやディスカッション等を行っていく。</p>							①⑥⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ソーシャルワークについて理解し、専門知識・倫理を適切に表現することができる。				定期試験	50%	
情報収集、分析力	専門職者としての視点から援助対象に関する情報を収集することができ、またそれら情報をもとに実践を分析することができる。				小テスト	15%	
コミュニケーション力	その時間、その場所に適したふるまいや態度を選択し、実行することができる。				授業態度	5%	
協働・課題解決力	ソーシャルワークの基盤と専門職に関する課題を、個人やグループで考察し、解決することができる。				授業内課題	15%	
多様性理解力	グループディスカッションを通じて、考え方の多様性を理解するとともに、それを受け入れることができる。				授業内課題	15%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験 (50%) : 筆記試験の形式にて行い、持ち込みは不可とする。出題形式は、概ね社会福祉士国家試験と同様とする。</p> <p>授業態度 (5%) : 普段の授業中の態度、授業内課題やディスカッションの取り組み具合をもって評価する。</p> <p>小テスト (15%) : 5・11・15コマに予・復習を目的に行う。出題形式については、授業中に情報提供を行う。</p> <p>授業内課題 (30%) : 随時、ポートフォリオや配布資料を基に実施する。形式等については、授業中に情報提供を行う。</p> <p>フィードバック : 小テストや授業内課題は、授業中に評価・解説する方法を用いてフィードバックしていく。</p>							
授業の概要							
<p>本授業は、ソーシャルワーク総論ともいべき科目である。そのため、今後履修するであろう「ソーシャルワークの理論と方法」や「ソーシャルワーク演習」等を通して理論に基づいた実践及び実践の理論化ができるよう、社会福祉専門職としての基盤固めを行っていく。については、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、ミクロ・メゾ・マクロレベルの視点、総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について、実践事例検討(ディスカッション等)を織り交ぜながら学修していく。なお、授業の案内や課題提示等はポートフォリオを活用する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書 : 日本SW教育学校連盟編 (2021) 『11 ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門]』中央法規</p> <p>参考書 : 空閑活人 (2009) 『ソーシャルワーク入門』ミネルヴァ書房 (専門用語理解に活用)</p> <p>指定図書 : リッチモンド/門永朋子他訳 (2017) 『貧しい人々への友愛訪問—現代ソーシャルワークの原点』中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>適宜、実際の事例、新聞記事、DVD映像、社会福祉士国家試験問題(過去問)などを通して授業を進めていくので、教科書で学修した内容をさらに深めて理解してもらいたい。</p> <p>講義は教科書の朗読を指名して行うことがあるため、読めない漢字にはふりがなをつけておくなど予習は必ず行うこと。大学での講義であるので、大切なものは自分で判断して、教科書に記載している内容も含めてノートに書く(メモを取る)習慣を身につけること。復習としては、知識の定着を兼ねてノート整理に努めること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	<u>自立の概念、人間の尊厳と人権・福祉理念とソーシャルワーク</u>	自立の概念、人間の尊厳と人権・福祉理念を踏まえ、ソーシャルワークの意義を学ぶ。	予習：はじめにを読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
2	<u>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲①(領域、業務、諸外国の動向)</u>	専門職の成立条件や認定社会福祉士の位置づけ、職能団体の役割、ソーシャルワーカーが活躍する領域やその業務、諸外国の動向を学ぶ。	予習：6章1節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
3	<u>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲②(領域、業務の事例紹介その1)</u>	施設関連のDVD映像等の事例を通して、ソーシャルワーカーの活躍する領域やその業務を学ぶ。	予習：6章2,3節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
4	<u>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲③(領域、業務の事例紹介その2)</u>	行政関連のDVD映像等の事例を通して、ソーシャルワーカーの活躍する領域やその業務を学ぶ。	予習：6章4節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
5	<u>マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①(マイクロレベル)</u>	マイクロレベルにおけるソーシャルワークの対象との関連性について事例を通して学ぼう。	予習：7章1,2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
6	<u>マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②(メゾレベル)</u>	メゾレベルにおけるソーシャルワークの対象との関連性について事例を通して学ぼう。	予習：7章1,2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
7	<u>マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク③(マクロレベル)</u>	マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象との関連性について事例を通して学ぼう。	予習：7章1,2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
8	<u>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容①(基本的視座)</u>	「総合的かつ包括的な支援」の動向とその背景、ならびに地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座を学ぶ。	予習：8章1節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
9	<u>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容②(8つの機能)</u>	地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能を学ぶ。	予習：8章2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
10	<u>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容③(ジェネラリスト・ソーシャルワーク)</u>	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点、特質を学ぶ。	予習：8章3節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
11	<u>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容④(事例検討その1)</u>	「個と地域の一体的支援機能」「予防機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ。	予習：配布資料を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
12	<u>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容⑤(事例検討その2)</u>	「新しいニーズへの対応機能」「総合的支援機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ。	予習：配布資料を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
13	<u>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容⑥(事例検討その3)</u>	「多問題家族への支援」「権利擁護機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ。	予習：配布資料を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
14	<u>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容⑦(事例検討その4)</u>	「社会資源開発機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ。	予習：配布資料を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
15	ソーシャルワークの基盤と専門職の総括	ソーシャルワークの基盤と専門職の総括として、教科書全体を振り返り、ソーシャルワーカーとしての基盤固めを行う。	予習：教科書全体を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
16	定期試験		